

狩野城の会は、狩野城の史跡を整備・保存し、狩野氏の歴史を継承したまちづくりを目的とした会です。

武将「狩野一族」と絵師「狩野派」のふるさと

狩野城跡は、伊豆一番の武将狩野茂光の居城でした。茂光は、中臣鎌足なかとみのかまたりの子孫、藤原家(南家)の血筋につながる武将です。茂光の死後も約三百年間、北条早雲と戦って敗れるまで狩野氏の本拠として、伊豆一円に勢力を振るっていました。この一族からは足利幕府、織田、豊臣、徳川幕府と各時代の為政者の御用絵師として活躍した「狩野派」が生まれていま

この地は、古くから「狩野郷」と呼ばれていた。

平安時代後期に藤原維景これかげは駿河守の任後、この狩野郷に定住し「狩野氏」を名乗った。代々伊豆と伊豆七島を治める押領使をつとめ、やがて、天城の地に狩野城を築き、ここを本拠地に伊豆を代表する武将として、約四百年間も活躍した。



特に、狩野茂光は嘉応二年(1170)伊豆大島の為朝を征伐し「介」の称号を賜った。つづいて治承四年(1180)源頼朝の平家追討の旗揚げに参じ、一族は数々の功績をあげた。

その後、永享四年(1432)狩野景信は、下向中の將軍足利義教公の御前で「富士の正図」を描きその才を認められ、息子正信と京都に上って絵師として活躍し、後に正信は「狩野派」をおこした。明応二年(1493)狩野城は、伊勢新九郎(後の北条早雲)との戦場となったが、今もその遺構は保存されている。「郭」「空堀」「土塁」などの遺構は保存されている。中世の山城の遺構は、天然の丘陵や小山上に、土塁と空

▲狩野城の縄張図



狩野常信作「花鳥図」(天城湯ヶ島町雲金 妙本寺蔵)

堀・堅堀・二重堀などによって区切られたいくつもの郭を配置するものが一般的であるが、狩野城跡は築城後約千年を経た現在でも、多くの郭の遺構が明瞭に保存されている。

また、近隣の雲金妙本寺には狩野探幽作「三猿遊図」、狩野常信作「花鳥図」が、下船原宝蔵院には狩野元信作「虎の絵」が文化財として保存されている。